

日本映画放送株式会社 第92回番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和7年2月18日(火) 15時～

2. 開催方式：対面、web会議ツールにて実施

3. 委員(順不同・敬称略)

出席：鈴木 嘉一・宮崎 美紀子・尾形 敏朗・山川 鉄郎・馬場康夫

web会議ツールにて出席：砂川 浩慶・神田 由築・倉田真由美

放送事業者

代表取締役社長：石原 隆

専務執行役員：山口 真

常務執行役員：宮川 朋之

局長：小川 英洋

編成制作局：田倉拓紀、荒瀬佳孝

web会議ツールにて出席：八巻洋平

番審担当：澤 尚志 碓井恭子

4. 議題

(1) 審議事項：時代劇専門チャンネルオリジナル時代劇『鬼平犯科帳 老盗の夢』

(2) 報告事項：日本映画専門チャンネル『』追悼特集・鶴橋康夫 -映像の魔術師-』

5. 議題(1)

松本幸四郎主演で2024年1月に始まった『鬼平犯科帳』新シリーズ。2月に第5弾となる最新作『鬼平犯科帳 老盗の夢』が独占初放送された。本エピソードのメインゲストは蓑火の喜之助、演じるのはこれまでの4作のうち3作に出演した橋爪功。また、24年11月に逝去された火野正平最後の撮影作品となった。本編後にはキャストが語るアフタートークも放送し、SNSでも好評を得ている。

【審議のポイント】

番組、企画について自由闊達な意見を求める。

6. 議題（1）審議内容

- ・『老盗の夢』の原作は喜之助が江戸に戻る理由や、想い人との別れと茶汲み女のおとよとの出会いが生々しく、人間模様の残酷さが、タイトルに込められていた。ドラマでは茶汲み女のおとよを清純派の北乃きいが演じることで淡泊な純情物語に変わっていた。幸四郎の出番がもう少しほしい。今回は立ち回りだけで、幸四郎の印象が薄かった。アフタートーク番組ではみなさん和気あいあいとした雰囲気、シリーズが順調に成長する予感があった。
- ・老盗の喜之助と、俳優としての橋爪功の老いが重なる作品だった。喜之助は若い女を言い訳に最後にもう一度盗みをしたかったのか、それとも単に毫碌していたのか、毫碌していると見せかけて実はすべてを承知していたのか。脆さと鋭さが絶妙に合わさっていて、どこに喜之助の本当の気持ちがあるのかわからない。そんな曖昧さを橋爪が上手に演じていて楽しめた。幸四郎は重厚な鬼平を演じているが、アフタートークで他の若いキャストと一緒にしゃぐ姿を見て、本編以上に新シーズンの始まりを感じた。
- ・（本作含め）4回も鬼平モノに登場した橋爪功は、新シリーズのアクセント的存在だった。これまで時代劇を担ってきたベテラン俳優から、新しい世代にバトンタッチするエポックメイキング的な回だったように見えた。吉右衛門主演鬼平版と見比べると、映像技術の進歩が素晴らしく、家の奥までスッと見渡せるし、花屋の場面で花が美しく映し出される。現代の時代劇はきれいな4Kの映像との融和性が高く、花や風景といったアクセントを効かせやすい。ただし、花屋に怪しい男たちや座頭がゾロゾロと真正面から出入りするシーンについては、演出上おかしいと思った。
- ・橋爪功が喜之助役とは少し高齢では、と心配したが、応援したくなる演技を見せてもらった。ただ、茶汲み女のおとよを演じた北乃きいとの年齢差は見た目ありすぎて、求婚シーンは女性として違和感が残る。妻にできなかった恋人に後悔があるのは理解できるが、相手が若くてきれいな女性である必要はなく、年上の女性でもよかったのでは。男性の時代劇ファンには違和感がなくても、女性には非現実的な年齢差には違和感を持つものである。今後、映像作品を作る上で、こういった隙はなくしたほうが良いのではないか。また本作は平蔵の活躍が少ない。少ない回があってもよいが、時代劇にスカッとするシーンを求める視聴者には今回は物足りないだろう。
- ・これまで『池波正太郎』、『時代劇』には、読者としても視聴者としても積極的に関わっておら

ず、時代劇に関しては初心者だが、本作中の鬼平の凄さが作品への期待を高めて楽しく観賞できた。時代劇映画は興行的に苦戦しており、今後、視聴者層が誰なのかについては心配している。私は自分が60代、70代になったら自然と鬼平を観たり、時代小説を読んだりするものと思っていたが、同級生含め、そういう事でもなさそうだ。ハリウッド作品など、現代の映画に比べると殺陣もスローで若い層に時代劇のリズムはまどろっこしいだろう。現在放送中NHK大河ドラマ『べらぼう』にも長谷川平蔵が登場しているので日本映画放送の鬼平と絡まないかと期待している。

- ・ ちょうど1時間くらいの作品で気軽に観られ、尺が短い時代劇があっていいと感じた。橋爪功の演技もさすがだった。2点ほど感情移入できなかった。1点は喜之助の一世一代の最後のお務めなのに、手下になる寄せ集めの男たちが安っぽく、キャストに厚みがほしかった。もう一点は茶汲み女のおとよが嘘を告白する場面。喜之助が亡き恋人の面影を見て彼女に心惹かれるのはわかるが、2人の関係が丁寧に説明されていないから、年齢差には違和感が残る。嘘をついた理由を言わずに謎めいたままのほうが、感情移入できたように思う。
- ・ 男女の年齢差への違和感が取りあげられているが、老境に入った喜之助が茶汲み女のおとよに過去の女お千代の面影を見て年甲斐もなく惹かれるというのが趣旨だろうから、違和感はない。演技面では、時折言葉につまる喜之助役の橋爪功の老いの演技がリアルで中高年の視聴者には刺さっただろう。また、もうひとりの老盗、彦十を演じた火野正平にとって最後の撮影現場というのも胸に迫る。鬼平と彦十の会話こそが、時代劇を支えてきた火野正平への花道になったのではないか。老盗の夢というタイトルにいちばん近かったのは彦十で、最後にすべてをさらっていった。鬼平が前面に出ず、歌舞伎の座頭のように要所要所で場を締め、生きることの厳しさ、人の情けの温かさを無言のうちに存在感で示しているのもよかった。
- ・ 松本幸四郎のシリーズ5作目はだいぶ板につき、貫禄が出てきて、吉右衛門版を上書きするような感覚で観た。「この浮世ではやり直せることは、運のいいこと」というセリフがあるが、足を洗って堅気の人になった糸八の生き方は盗人には夢である。『老盗の夢』には堅気になる夢と、若い頃に死に別れた恋人を今も夢見る2つの意味が重なっているようだ。とはいえ、人生の酸いも甘いも知る老盗が若いおとよのために100両を用意しようと盗みを計画するのは不思議な話だ。以前も申し上げたが、時代劇の出来はキャスティングにかかっている。時代劇の今後を考えるなら新しい人を探しつつ、今はあまり表舞台に出ていないベテラン俳優を発掘してほしい。いい役

を持っていけば出演してくれるはず。ドラマ『SHOGUN 将軍』、映画『室町無頼』など世間で時代劇に風が吹いている今、逃さないでほしい。

これに対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・本作では橋爪功が演じた蓑火の喜之助と、火野正平が演じた相模の彦十という二人の老盗をキーパーソンとして描いた。お二人のように時代劇を制作するうえで欠かせない重みのある役者を起用することに加えて、今後も「鬼平犯科帳」を作り続ける上で、まだ見ぬ役者を発掘していくことにも注力したい。いただいたご意見は今後の脚本づくり、キャスティングの参考になった。
 - ・鬼平は時代劇専門チャンネルの柱をなす企画、本作で5本目となった。春には新作の撮影に入るが、今回の意見は大変参考になった。鬼平シリーズだけでなく、時代劇を制作する上での注意点として現場にフィードバックしたい。今後の時代劇ファンの開拓についていろんなアプローチがあると思うが、若いキャスト、題材の選び方、時代劇の届け方などを考えていきたい。
- 鶴橋監督追悼特集の特別番組では、「監督のためなら」という事で、多くの俳優の方々がご出演くださり、監督ご自身・作品の魅力について多面的に話していただけた。名監督への追悼特集は今後も企画したい。

7. (2) 報告事項

- ・日本映画専門チャンネル『追悼特集・鶴橋康夫 ―映像の魔術師―』について
- 社会派ドラマの名手として半世紀以上に渡りテレビドラマや映画を手掛けた演出家・鶴橋康夫。鶴橋監督の一周忌に合わせ、24年10月からキャリアの黄金期である80年代から90年代の傑作ドラマ4作品を2カ月にわたり特集。さらに、鶴橋組に関わった俳優や、素顔を知る方々からの証言から、映像の魔術師と呼ばれた演出家の姿を記録する特別番組を放送。普段インタビュー番組に出演しない俳優たちが、「監督のためなら」と出演を快諾し、独特な演出手法を語ってくれた。インタビュアーは番組審議会の委員でもある鈴木 嘉一氏が担当し、深い話を探っていただいた。

8. 連絡事項

次回、第93回番組審議会は2025年5月13日(火)、15時から、対面、オンラインのハイブリッドにて開催予定。